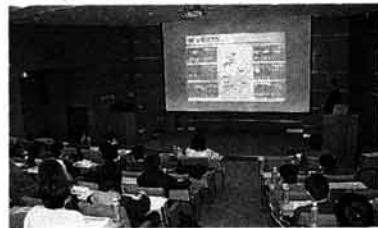


研究所の実験設備を見学する大学院生（写真上、富士通研究所）。研究所の組織についての説明に熱心に耳を傾ける（同下、日立製作所基礎研究所）



## 生の声 後進育成に活用

大学院生が企業に出向く例は

「声が聞ける」としている。いる。

企業と大学が共同でエレクトロニクス分野の研究者を育成する新しい試みが注目されている。東京大学ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構（荒川泰彦教授）が今年度から始めた修士・博士課程の大学院生向けの特別講義「ナノ量子情報エレクトロニクス特論」だ。年間二十六コマの講義があり四単位を取得できる

が、そのうち六コマ分は大学院生が企業の研究所に出向く、企業の研究者から最先端の研究内容についての講義を受ける。

企業の研究者が非常勤講師として大学に出向く講義する例は珍しくないが、大

学校生が企業に出向く例は珍しい。その狙いについて、同研究機構は東大大学院の三つの研究科（工学系、製作所、富士通研究所の四当する高橋琢二准教授は、理学系、情報理工学系）と社が共同研究に参加してお「大学での研究現場と企業三つの研究所・センター（生り、東大の駒場リサーチキャンパス（駒場II）内には、産技術、先端科学技術、物性）に所属する研究者が組み、その雰囲気を実感し、研究者の生の同研究する体制を構築してこの協力関係を、大学院生

の教育にも発展させたのが今回の試みだ。今回の試みは、もともと、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ

を実感できたとしている。に相当する額を上乗せして、研究者たるうえで、人材が離れる分（修士で二年、博士で五年）それ